

中学校第1学年 技術・家庭科(家庭分野)学習指導案

日 時 平成24年9月28日(金)2校時

指導者 教育センター所員 岩永 順子

1 題材 「我が家を安全で快適な住まいにしようプロジェクト」(内容C-(2))

2 指導観

住まいは、私たちの生活を危険から守り、心身の健康と安らぎを与えてくれる重要な場でなければならない。しかし、家庭内における死亡事故の件数は、交通事故をはるかに上回っている現状がある。また、昨年の東日本大震災の被災により、住居に対する安心・安全への要求は、ますます高まっている。本題材では、住居の快適性や安全性に関する知識を学ぶ過程で、自らの住生活と照らし合わせて、その中で課題を見出し、よりよい住生活を送るために、工夫し改善することができるようになることをねらいとしている。このことは、現在及び将来の住生活において、課題をもって実践しようとする態度を養うことにつながり、意義があると考えられる。

事前調査を行ったところ、小学校での住まいの学習内容について家庭で実践している生徒は「している」「時々している」を合わせると、整理・整頓53.1%、掃除59.4%、快適な住まい方68.8%の結果であった。実践していない生徒の理由として「母親がしてくれる」「面倒くさい」「やる気がない」などが挙げられ、生活をよりよくしようとする意欲があまりもてていない状況が見受けられる。住居の快適性については、「快適」「だいたい快適」と回答した生徒は87.9%と高いが、逆に「あまり快適でない」と回答した生徒の理由は全員が個人の部屋をもっていない不満であった。快適性への認識が一人になれるかどうかだけで、家全体の在り様に目が向けられていないことがうかがえる。住まいの安全への関心は「ある」「わりとある」と回答した生徒は68.8%であるが、安全対策を具体的に実践している生徒は53.1%と低くなった。実践していない理由としては、「時間がない」「難しい」「やり方が分からない」「災害が少ないから」などの回答があった。住居の安全については、生徒自身が実践することが難しい内容であることから、関心はややあるものの、親任せで主体的に取り組むことができている実態がうかがえる。このことから、住居の快適性や安全性を重視した住まい方に関する知識と実践しようとする態度を身に付けることが重要であると考えられる。

指導に当たっては、生徒が学習した知識を活用できるように問題解決的な学習を軸に住生活の基礎的・基本的な知識を習得し、常に自らの住生活を意識させながら修正を加えていく学習活動を展開する。その過程では、話し合い活動を取り入れ、安全で快適な住まい方について自分の考えを発表したり、他者の話を聞いたりすることで、よりよい住生活を工夫できるようにしていく。また、家庭分野で用いる生活に関連の深い言葉を理解し活用できるようにするなどの手立てを行うことで、言語活動の充実を図ることとした。

3 題材の目標

住居の機能と住まい方に関する学習を通して、自分や家族の住空間に関心を持ち、安全に配慮した室内環境の整え方を知るとともに、安全で快適な住まい方を考え、具体的に工夫できるようにする。

- 4 題材の指導計画 (総授業時数 7時間)
- 〔1〕安全で快適な住まいについて考えよう 2時間
 - 〔2〕安全で快適な住まい方について考えよう 2時間
 - 〔3〕安全で快適な住まい方を家庭で実践できるように工夫しよう 2時間
 - 〔4〕我が家を安全で快適な住まいにする工夫を考えよう 1時間

5 題材の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について関心をもって学習活動に取り組み、住生活をよりよくしようとしている。	安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。		住居の機能について理解し、安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

6 指導過程

時間	ねらい・学習活動	評価規準				評価規準(評価方法)
		関心・ 意欲・ 態度	工夫・ 創造	技能	知識・ 理解	
1 2	安全で快適な住まいについて考えることができる。 ・安全で快適な住まいとはどのような住まいかを話し合い、発表する。 ・家庭内の事故には、様々なものがあることや自然災害への備えの必要性を知る。 ・自分の家を安全で快適な住まいにするにはどうすればよいかを考える。 (家庭の室内環境の問題点や危険箇所について調べてくる。)					関 安全で快適な室内環境に関心をもって、学習活動に取り組もうとしている。 ・行動観察 ・学習カード 知 安全で快適な住まいに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 ・学習カード ペーパーテスト
3 4	室内の空気調節や音と生活との関わり、家庭内の事故の防ぎ方、自然災害への備えなどの視点を通して、安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法を理解することができる。		3 ~ 7時間 目で適 切な評 価場面			関 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について関心をもって学習活動に取り組もうとしている。 ・行動観察 ・学習カード 工 安全で快適な室内環境の

	<ul style="list-style-type: none"> ・体験や実物，資料等を活用した学習活動を通して，「住空間」「室内の空気調節」「防音」「室内の安全」「災害への備え」について考える。 ・自分や家族の住空間について，1週間でできる安全で快適な室内環境の整え方や住まい方を考え，グループで発表し合い，修正案を考える。 		を設定する。		<p>整え方と住まい方について課題を見付け，その解決を目指して工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カード ・実践計画書 ・家庭実践の記録 <p>ペーパーテスト</p> <p>知 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カード ペーパーテスト
家庭で実践し，実践結果をまとめてくる。(1週間程度)					
5 6	<p>自分や家族の住空間について，安全で快適な室内環境の整え方や住まい方を家庭で実践するための工夫を考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで実践結果について発表し合い，修正案を考える。 ・家庭で実践する上での課題について話し合い，発表する。 ・家庭で実践する上での課題を踏まえて，家庭の室内環境の課題について重要度と取り組みやすさを考え，グループで発表し合い，修正案を考える。 ・実践計画書に修正を加える。 	5 ~ 7時間	3 ~ 7時間		<p>関 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について関心をもって学習活動に取り組み，住生活をよりよくしようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・学習カード <p>工 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について課題を見付け，その解決を目指して工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カード
7 (本 時)	<p>これまでの安全で快適な住まい方の学習を生かした実践計画を分かりやすく伝え合うことができ，よりよい実践計画になるように工夫することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで実践計画書を発表し合い，修正案を考える。 ・実践計画書に修正を加え完成させる。 				<p>関 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について関心をもって学習活動に取り組み，住生活をよりよくしようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・学習カード <p>工 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について課題を見付け，その解決を目指して工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践計画書 ・学習カード

ペーパーテストについては，ある程度の内容のまとめりごとに実施する。

7 本時の展開 (7 / 7 時間)

(1) 小題材名 我が家を安全で快適な住まいにする工夫を考えよう

(2) 本時のねらい

・これまでの安全で快適な住まい方の学習を生かした実践計画を分かりやすく伝え合うことができ、よりよい実践計画になるように工夫することができる。

(3) 学習活動と評価

時間	学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価方法
(分) 2	1 本時の学習のめあてを確認する。	・発表原稿ができているかを確認する。	
	学習課題：我が家を安全で快適な住まいにする工夫を考えよう。		
5	2 「我が家を安全で快適な住まいにしようプロジェクト」(実践計画書)の発表会の要領を確認する。 ・ 2分程度...説明 ・ 1分程度...意見・質問・感想の記入 ・ 2分程度...質疑応答	・ポスターセッション方式で他のグループの前で発表を行うことを伝える。 ・意見3点,質問2点,感想1点の配点を示し,よりよい実践計画にするために意見や質問を重要視していることを伝える。 ・意見はピンクの付箋紙,質問は水色の付箋紙,感想は黄色の付箋紙に記入させ,質疑応答後に発表者に渡すようにする。 ・発表順については,教師が事前の発表原稿を確認し,同じ程度の長さの生徒同士で行わせるようにする。	発表会の場面 評価方法 【行動観察】【発表原稿作成シート】 関心・意欲・態度 実践計画書を修正する場面 評価方法 【実践計画書】【学習カード】 工夫・創造
30	3 発表会を行う。	・教師が,全体の様子を見て質疑応答の時間をとり,発表の開始は同時に行うようにさせる。 ・聞き方,説明の仕方,記入の仕方,質疑応答の進め方等について机間指導をする。	
3	4 「我が家を安全で快適な住まいにしようプロジェクト」(実践計画書)を修正し完成させる。	・意見・質問・感想への対応をまとめさせ,友達の意見等を参考に,実践計画書の最後の修正を加えて完成させる。	
5	5 住生活の学習を終えての感想を書く。	・数名の生徒に発表させ,これからの住生活に対する意識を深め,実践意欲につなげられるように感想を共有する。	
5	6 本時のまとめをする。	・これからの住まいの考え方として,地球環境の保全を考えた環境共生住宅を例に挙げて紹介する。 ・これからの住生活をよりよくするために実践を促す。	

(4) 評価基準と支援の手立て

評価場面・評価の観点	おむむね満足 (B)	努力を要する (C)	支援の手立て
[発表会の場面] 関心・意欲・態度	住生活の学習で使用されている言葉を使った発表原稿を作成し、分かりやすく説明する工夫をして、実践計画書を発表している。	住生活の学習で使用されている言葉を使わずに発表原稿を作成し、分かりやすく説明する工夫もななく、実践計画書を発表している。	事前に発表原稿を確認し、言葉や工夫について具体的な例を提示して個別対応する。
[実践計画書を修正する場面] 工夫・創造	意見・質問・感想に対して対応を記入でき、実践計画書を見直している。	意見・質問・感想に対して対応を記入せず、実践計画書の見直しができない。	具体的な記入の仕方や実践計画書の見直しの仕方について、個別に対応する。